令和５年度　学校自己評価（職員年度末評価）　　後期の取組と成果　来年度への課題

25　長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による年度末評価　A:十分　B:概ね十分　C:やや不十分　D:不十分　　回答総数　63

評価項目		評価の観点	後期の取り組み	後期の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
1	学校づくり	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびSSH5期のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	新たな取組 ・信州大学4学部（教育・理・工・繊維）と「STEAM教育に係る連携及び協力に関する覚書」を締結（10月12日） ・新設SSH科目「SS探究」の実施、海外研修の実施 例年の取組 ・「SSHミニフォーラム」の実施 　12月5日（金）「理系女子研究者育成」 ・SSH科目「グローバルサイエンス」「アカデミックサイエンス」での特別講義の実施 ・探究活動の実施 「科学リテラシー」「一人一研究」「課題探究（普通科）」 「課題研究（理数科）」 ・第41回　SSHサイエンスフォーラム　3月4日（月）予定 「震災の記憶をどう受け継ぐか、－2014年神城断層地震研究と震災アーカイブの取組み」 　　信州大学教育学部教授　廣内　大助　氏 ・各種科学コンテストへの参加	・これまで各学部と個別に連携をしていた内容を包括的に行うことで、科学技術人材の育成に向けて、課題の共有・研究協力・人的交流などについてこれまで以上に充実させ、先進的なSTEAM教育プログラムの開発に協力して取組んでいく。 ・シドニーへの海外研修を実施することができた事は非常に大きな成果。来年度の方向性を検討したい。 ・月2時間の探究時間をどう活用していくか検討していく必要がある。また、探究活動を通して生徒を育成していくという認識を、職員全員が持つことが重要である。 ・普段の授業を探究活動と結び付けられないか？授業の中から、探究のテーマが設定できると良い。	25	35	3		83.7
			他校の教職員との交流（中学）	県外視察で来ていただいた学校との情報共有。本校からも視察等を計画したい。（中学）					

評価項目		評価の観点	後期の取り組み	後期の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
2	キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	・従来の指導体制に基づき、補習（朝、放課後、土曜）・特編授業・模試準備や復習の徹底等、さらに基本的生活習慣の確立等の生徒の意識付けにも取り組んだ。（高3） ・学年通信や学年集会等で早めの進路決定を呼びかけた。修学旅行が終わり、東大生セミナーやハイレベル模試の企画をしたこともあり、生徒の意識は受験に向いてきた。（高2） ・キャリア講演会を2回実施し、ジョブシャドウまたは大学見学や文理選択レポートを通して、文理選択や進路希望を考えるきっかけ作りとした。（高1）	9月からの朝・放課後・土曜補習への参加や1棟での自主学習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。（高3） 全体としては例年通りであったと思うが、コロナ禍の影響もあるためか授業を休むことに抵抗感がない生徒が若干名いた。学校生活に最後まで取り組み、受験に向かう集団作りをさらに考えていく必要がある。（高3） コロナ禍のためオープンキャンパスなどで大学を見学することが思うようにできないため、さらに生徒の進路意識を高める日常での取り組みの工夫が必要である。（高2） 共通テストに対応できるように授業進度を考えながら、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。（高2） 文理選択などの指導を通じて、2年次以降の学習へスムーズにつながるように指導・支援することが大切である。（高1） 目標が明確に定まっている生徒と、全く見通しが立っていない生徒の差が大きい。勉強のモチベーションを高める意味でも、早めの進路の意識付けをしていきたい。（高1）	25	34	4		83.3
			全校人権学習（中学）	今年度は、学校としてのテーマを「子ども」と設定し、11月に子どもの権利条約について学習したり、2月に人権講演会を実施したりするなど、全校で進めることができた。（中学）					
			福祉体験学習（中2）	福祉体験実施日は中止となったが事前学習が意味のあるものだった。（中2）					
		進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	・節目節目で学年集会を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。また学年通信を年間を通じて約30回発行して、必要な情報を共有できるようにした。（高3） ・保護者向けには科目選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、新課程の入試科目と3年次の選択科目を研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。（高2） ・保護者向けには文理選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、文理選択について研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。（高1）	・模試、共通テスト、個別試験、推薦入試に関する情報を細かく発信することができた。（高3） ・多くの生徒は目標が定まってきているが、まだ進路の方向性がはっきり見えてきていない生徒がいる。（高2） ・今年度は大学見学を実施した。コロナ禍の影響で受け入れ人数が制限されたため、県外の大学にも訪問し、生徒の進学に対する意識が高まった。（高1）	25	33	5		82.9
			学年通信、学年PTAを通してキャリアに関する情報を発信した。また、全学年保護者を対象に「進路研修会」を実施した。（中学）	進路研修会の時間を長時間確保する。（隔年のため次回はR7年度実施予定）（中学）					

評価項目		評価の観点	後期の取り組み	後期の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
2	キャリア教育	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	・科目を減らさず、5-7,8型で最後まで諦めずに学習に取り組む指導を行った。(高3) ・生徒には学年集会や科目選択説明会を通じて志望校や学部を研究させた。教員側は各教科の指導の取り組み情報や考査毎の成績情報を学年で共有し指導に活用した。共通テストに実際にチャレンジすることで、今後つけるべき力を確認させた。(高2) ・学年集会、保護者説明会、キャリア講演会などを通して、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)	・例年と同様に、最後まで粘り強く学習に取り組み多くの生徒が5－7,8型で受験を行った。(高3) ・各教科の学力をバランス良くつけるために、教科間の連携や調整が一層必要となる。(高2)	24	36	3		83.3
			学力推移調査(1月)(中学)	後期は、Classiの体験等を実施し目標を立てたり、自己分析したりしながら取り組むことを目指した。本校の傾向が見えてきたので、今後の指導に活かしたい。(中学)					
		学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	・考査や外部模試の結果、及び、面談週間をはじめとする個人面談により、集団と個々への指導を繰り返した。(高1・2) ・3年間模試分析を通して各科目の学力実態を把握し、授業をベースにしながら、目的別の補習や個人添削等でより個々に適した対処をしてきた。(高3)	・各成績層に合わせた「学習内容」を充実させていく。(高1・2) ・生徒の心に寄り添う点にも配慮しつつ、学力の伸長をはかっていきたい。特に10月には模試が集中するので、模試の受験回数を厳選する必要があるように感じる。(高3)	21	35	7		80.6
			学力推移調査(1月)中学	・結果分析を教員だけでなく生徒にもフィードバックしたい。(中学) ・Classiの導入を含めて、指導の方法を検討したい。(中学)					

評価項目		評価の観点	後期の取り組み	後期の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
3	教科 指導 ・ 授業 改善	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICT活用のための研究を進め、教科指導の研鑽に努めることができたか。	・職員研修会②の開催11/15「観点別評価・学習評価とは」各教科から出された課題・意見について教頭先生より説明。観点別評価の教科別授業内評価実践例発表 ・校内授業公開②の実施1/29-2/9　タブレット活用授業・観点別評価の授業内評価実践例見学（教科不問） ・授業充実のためのアンケート②実施2月 ・職員ICT研修会②の開催11/15　ICT活用実践例の発表（2名）「Google Classroomで構築する教科指導の実践紹介」「ロイロノートの実践例」	・観点別評価の「指導と評価の一体化」について改めて共有し、シラバス作成時に評価の観点と方法を明示することを再確認。 ・タブレットを活用した授業を見学してICT機器を中心に授業工夫の共有。 ・生徒の要望を再確認。個人アンケートを教科で共有することが難しい。 ・職員間のICT利用格差解消が今後の課題	29	31	3		85.3
			全郡研究（11月）（中学）	本校のICT活用の様子を他校の職員と共有・分析することができた。また、授業者、担当教科だけでなく全職員で授業づくりに努めることができた。（中学）					

評価項目		評価の観点	後期の取り組み	後期の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
4	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	安全な自転車通学の呼びかけと電車への乗車マナーの注意喚起	ヘルメット着用率の向上と乗車マナー向上の呼びかけ	25	37	1		84.5
			交通安全街頭指導（中学）	電車マナーについては、全校への連絡や方面別に生徒を集めて指導した。また、学年通信等も活用して呼びかけた。（中学）					
		いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	・12月「いじめアンケート」実施。個別面談（全学年） ・学校生活アンケート、アセス（中学）	・SNS配信については引き続き注視していく。 ・班室の管理について指導していく。 ・アセス結果は担任だけでなく学年職員を中心に共有し指導に役立てることができた。学校生活アンケートの記述部分は副校長が対応した。（中学）	27	35	1		85.3
	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	・長期休み後の、自殺予防啓発の連絡および配信を行った。必要に応じたカウンセリングの実施を個別に行った。 ・毎週の係会による生徒状況の把握と支援に努めた。生徒支援における急な対応にも協議しながら臨機応変に対応することができた。	・支援を必要とする多くの求めに応じて、各方面との話し合いながら支援をしてきたが、運用の難しさを感じた。相談室登校では巡回のなかで声かけをしながら、支援することができた ・毎週の係会によって学年の生徒の状況把握に努めることができた。	31	31	1		86.9
			支援会議、家庭訪問、SC（中学）	希望通りSCを実施することができた。支援会議、家庭訪問など適切な支援に努めることができた。（中学）					
	人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	・10月26日（木）講師入安 ムニレさん（上田女子短期大学・上田染谷丘高校非常勤講師）による「共に生きる～外国人を取り巻く人権について考える」を全校実施 ・1月25日（木） 高1，2年生の各HRでーベル平和賞を受賞したイラン女性活動家の「女性抑圧に抵抗」とジェンダーギャップの問題点を探る。	・日常的・恒常的に行われている人権教育を継続していく。 ・発達段階の異なる中学生と高校生合同講演会を今後どうするか。	27	34	2	1	84.9
			道徳、学校生活アンケート、アセス（中学）、全校人権講演会	把握後は即支援・指導にあたることができた。（中学）					
5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	オクレンジャーなど、適切な時期に配信した。HPの「ハトニワ」も、校内行事・SSH・探究・班などの活動状況を速報として発信した。また、屋代高校前駅の「屋高の窓」も1ヶ月ごと更新し、体外へ向けた情報発信を心がけてきた。探究活動でグループが作成した「ハト」のイラストを、HPに掲載した。	オクレンジャー・HP「ハトニワ」・「屋高の窓」など、適切な時期に適切な情報を今までのように発信できればと考えている。	25	35	3		83.7
			・学校HPや総合的な学習の時間の一環として、地域に活動を発信した。	・学校HP・附属中通信は今年度同様、可能な限り発信したい。また、中1では学年通信はクラスルームを活用した。来年度は全学年で実施したい。（中学）					

評価項目		評価の観点	後期の取り組み	後期の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
					A	B	C	D	指標
全体	生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。	生徒会選挙後第68期役員選出，一斉委員会1回開催，週1回定例役員会を開催。必要に応じて各委員会ごとに臨時委員会を開き、生徒の自主的活動を支援できた。 班長会3回，班室清掃4回行い，班活動の活性化を支援した。	引き続き、中高の協力体制や連携のあり方を模索して行きたい。	27	33	3		84.5
			新正副係長選出後鳩祭へ向けて正副係長会3回実施し鳩祭テーマ決定。	来年度の鳩祭へ向けて、新役員との打ち合わせ会を実施し、内容・対策の検討を始めている。					
			今年度テーマ「参画」を目指し、全校で活動する内容が増えた。（中学）	来年度も全校テーマを据えて活動させたい。（中学）					
		生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をすることができたか。	・各行事や日常の委員会活動で、感染症対策に配慮しながらも生徒の自主性を促しつつ内容を充実できた。生徒役員からの提案により、他校との交流や、募金活動を積極的に行った。 ・全校企画（レク、ブレスト）、クラスマッチ（中学）	・生徒役員からの提案が多く出されているので、話し合いを重ね、実現させていきたい。全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。 ・全校での活動は早期にLHR計画を立てて進めたい。（中学）					
	校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	・日常清掃の際に、生徒と職員がごみ集積所で分別の確認をしている。職員にも清掃分担を割り振り、清掃がきちんと行われるよう日常的に指導をしている。清掃用具は、二ヶ月に1回程度補充を行っている。また、「創立100周年記念式典」のため、落葉清掃特別週間の開始を早め、10月下旬から11月にかけて行った。 ・生徒会と連携し、第2回目のワックスがけ（11/10）、モップ交換（12/8,1/26）、資源回収（10/2,1/16,2月末（予定））を行った。古紙等の資源物は買い取ってもらい、生徒会の収入としている。また、各清掃分担場所の用具数量調査を実施した。	・教職員と生徒が共に行うごみ集積所での分別活動や、各分担の清掃活動を通し、校内美化の意識づけにつなげていく。また、引き続き定期的に用具の補充を行っていく。 ・モップ交換は半年に1度の設定ができたが、後期は数量が少なかったので、来年度は1回にまとめる。引き続き生徒会と連携しながらワックスがけ、モップ交換、用具の点検、古紙のリサイクル等を行っていく。	17	39	7		79
			縦割り清掃を実施し、全校で校内美化に努めた。（中学）	手ぬぐい、無言など年度当初に確認した内容を丁寧に進めたい。（中学）					

指標は、A(4点)， B(3点)， C(2点)， D(1点) として最高100点となるように換算しました。　〔換算式〕　25×（4点×Aの数＋3点×Bの数＋2点×Cの数＋1点×Dの数）÷総数